

読書の愉しみ

身上書の趣味の欄に「読書」と書き入れる人は少なくない。かく言う私もその一人であるが、その本意は人によって異なるように思われる。自他ともに認める読書家がいる一方で、特記するほどの趣味はなく、取り敢えずそうしている場合もある。

私はどうかといえば、前者の端くれには入っているはずである。といっても、みずからが専門とする領域の学術・研究書を繙くことはいわば本業の一部であって、これをも「読書」とするのはいささか憚れる。曲がりなりにも読書家と自称するのは、実のところ、そうした専門書以外の本を数多く読み漁っているからにはかならない。

その方法は、さわめて原始的である。とある作家（文学賞を獲得するなど、世評高い作家のケースが多い）を選び、まずはその代表作ないしは処女作を読んでみる。それで気に入った場合は、可能なかぎり公刊順に読み進める。あとは私の読書スピードと作家の創作力との競争になるが、凱歌は常に私にあがる。通勤途上はもちろんのこと、食事や入浴の時間まで読書に注ぎ込む活字中毒の身からすれば、もとより当然の結果といえよう。

かつては、井上ひさし、大江健三郎、佐木隆三、ディック・フランシス（本年2月に逝去が報じられた）といった、特に気に入りの作家の初版本を買い揃えていた。しかし、家計に及ぼす影響と収容上の物理的限界を前に断念せざるをえず、ここ十年来は、公共図書館に依存する日々となっている。

学務担当副学長・法学部教授
矢島 基美

それでも、どうしても買い求めたくなる——そして、結局は買ってしまう作品に出合うことがしばしばある。

虹色のごとき文体を見事に操る浅田次郎の縦横無尽の作品群、硬質な文体と緻密な構成で圧倒的な高村薫、『砂のクロニクル』に何度も挫折しながらようやく読破して没入した船戸与一ワールド、寡作ながら度肝を抜く隆慶一郎の『影武者徳川家康』、絶妙な会話とテンポあるストーリー展開で唸らせる黒川博行、中国・春秋戦国時代に材を得た宮城谷昌光の連作もの、ハード・ボイルドで鳴らした北方謙三の『水滸伝』（その後日談で、今も連作中の『楊令伝』）、佐藤雅美、宇江佐真理、山本一力の江戸捕り物帖・人情話、さらには、ジェフリー・ディーヴァーが描く科学捜査官ライム・シリーズ……。

打ち震えるほどの感動や沈黙思考の機会を与えてくれる作品は文字どおりの珠玉であり、それを手にすることはまさに至福というほかない。そこに、読書の愉しみがあり、醍醐味がある。そんな夢のごとき時間も、この二年ほど、大きな制約を受けている。専門書を読み解くことさえままならない以上、やむをえないことではあるが、活力を蓄え、思考の広がりやわからさを保つためにも、できるだけ読書する時間を見つけないと思っている。

図書館ツアーのご案内



図書館には、約110万冊の蔵書があるほか、映画や語学のDVD・CDを視聴できるAVコーナーや、グループ学習室、ラーニング・コモンズ、情報検索室、レファレンスカウンター（利用相談窓口）など、高校の図書館とは違ったさまざまな施設があります。図書館ツアーでは、主なスポットを約10名ずつのグループに分かれて見学します。図書館ツアーに参加すると、図書館の使い方が分かるようになりますので、ぜひご参加ください。

***参加された方には図書館オリジナルクリアファイルを差し上げます。**

- ・各回30分です。いずれの回も同じ内容です。
- ・都合の良い日時にご参加ください。（予約不要）

- ・開始5分前に中央図書館1階にお集まりください。学生証を入館ゲートに読み込ませて入館し、レファレンスカウンター前でお待ちください。

- 物質生命理工学科の新入生は、学科から指定された時間帯にお越しください。

（4月2日（金） 13：00～13：45、14：00～14：45）

実施日	ツアー出発時間			
4月7日（水）	10：30	11：30	14：30	15：40
4月8日（木）	10：30	11：30	14：30	15：40
4月9日（金）	13：30	15：00		



図書館資料のご案内

上智大学図書館では図書を学部学生用と専門・研究図書に分けて配架しています。前者は学部学生が主に日常の学習に利用できるよう選定された図書で、後者は専門性の高い研究図書です。さらに図書は和漢書(日本語・中国語・韓国語で書かれた図書)と洋書(英語・フランス語・ドイツ語などで書かれた図書)で区別しています。また、図書は3種類の分類法で分類しています。和漢書は日本十進分類法(NDC)、『洋書は『米国議会図書館分類表(LC)、また1981年3月以前に受け入れた図書の一部は『上智分類法(SC分類)』に基づきテーマ別の請求記号で並べられています。請求記号はいわば図書の住所です。NDC分類を覚えておくと探している図書が見つけやすくなります。和書の分類については次のページを参考にしてください。



レファレンス資料(1階・2階)

調査・研究のために手がかりとして利用する参考資料です。1階は人文・社会系、2階は理工系の図書が配架されています。

辞書や百科事典などの資料がまとめて並べられていますのでその場で資料を広げて利用できます。

※レファレンス図書の館外貸出は不可



リザーブブック(1階)

授業などに関連した必読文献、または補助資料として教員から特に指定のあった資料で、1階貸出カウンター内のリザーブブック用の書架にあります。利用方法は直接貸出カウンターで教員名と資料名を申し出てください。

貸出冊数は4冊までですが、多くの学生が利用しますので、貸出時間を2時間、24時間、72時間の3種類に設定しています。延長や予約はできませんので気をつけてください。



通話・音禁止



私語厳禁



飲食禁止

図書館所蔵資料・施設一覧

8階	哲学・心理学・宗教・芸術・スポーツ等 大型本(Oversize)	専門・研究図書 ※学部学生の方も利用できます (4階から8階は人文・社会系)
7階	文学 和装本	
6階	言語学・歴史・地理	
5階	経済・社会・教育・産業・軍事	
4階	総記・図書館学・ジャーナリズム・政治・法律 紀要	
3階	新聞バックナンバー 雑誌バックナンバー(人文・社会系)	学部図書
2階	自然科学・技術・工学 レファレンス資料・新刊雑誌・ 雑誌バックナンバー(理工系)	
1階	レファレンス資料・(人文・社会系) AV資料 リザーブブック 新着雑誌(人文・社会系) 新着新聞コーナー	
B1階	哲学・心理学・宗教・ 歴史・伝記・地理・ 政治・法律・経済等	学部図書
B2階	社会学・教育学・民族学・ 自然科学・医学・技術・ 産業・芸術・言語・文学等	

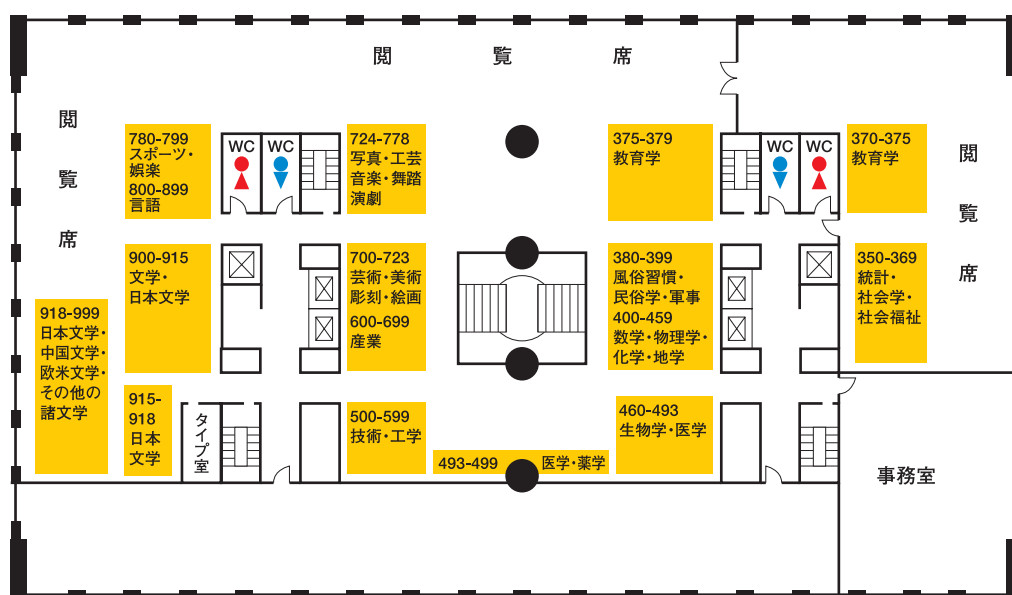
紀要（4階）

上智大学を含む300以上の国内大学機関等が発行する雑誌約10,000冊が製本された状態で配架されています。

地下1階フロア



地下2階フロア



ラーニング・commonsやラウンジがあります。ぜひご利用ください。

参考：『日本十進分類法』

000～	図書館、百科事典、ジャーナリズム、叢書	500～	工学、工業、家政学
100～	哲学、心理学、倫理学、宗教	600～	農林水産業、商業、運輸、通信
200～	歴史、伝記、地理	700～	美術、音楽、演劇、スポーツ
300～	政治、法律、経済、統計、社会、教育	800～	言語
400～	数学、理学、医学	900～	文学

"Citation Fundamentals"

If what you are doing is reading a book purely for pleasure, which is a solitary silent activity, you may not even discuss it with anyone. Even if you do talk about the book, you will probably refer to it only by author or title.

But people writing about a book, especially in academia, are usually more careful. This particular article is not the place to explain (again) the details of how to formally cite a source. There are official manuals for that. Simply stated, the style varies with the field. It is mildly exasperating to me when I hear that a student has asked an instructor in a class how to do the citations for an upcoming paper and the instructor has replied: "Do it the way you were taught in English class." In reality, citation style varies. Broadly speaking, humanities, social studies, and STM (science, technology, medicine) differ. There are, not surprisingly, differences within STM. Traditionally, the basic elements of a citation have been: author, title, place, publisher, date, and (for periodicals) volume, issue, and page. Since the advent of the Internet and the proliferation of digital documents, an URL or doi (digital object identifier) have been added.

This brings us to the matter of using digital sources. It seems that young people (those under the age of 30), have only a hazy idea of the range of document formats available. In the past, a user had in hand (literally) a copy of a newspaper, magazine, journal, or book. The next step was relatively simple: consult a style manual to find a model citation for that sort of publication. But these days the document in question is often one found on the Internet in digital form, which means they all look much the same. Not only do many young people have trouble visualizing the source, some do not even consider that sources can vary. They have not had much experience in actually handling the items mentioned above, let alone such things as proceedings, anthologies, or government documents.

Not only do digital documents all blur into each other in cyberspace; even authorship has become indistinct. Those who have downloaded music (whether purchased or pirated) into their computers, then loaded it into their iPod or other music player, have been saving the items in the most casual manner, e.g., a personal playlist, and when the music is

passed along to a friend, identification of the piece may be minimal.

A striking new development is seen when these information users, perhaps influenced by bloggers, create their own text documents. They select snippets from here and there on the Web, then rearrange them, maybe adding personal comments and transitional material. Links to sources may or may not be provided. Those who consider this unremarkable call it "curating" - supposedly analogous to a museum curator selecting certain paintings from his own and other institutions, placing them in a gallery in a certain sequence with labels and commentary, usually within the context of a theme.

A well-curated art exhibit can be an enriching experience for a viewer. Though it is secondary to the image, its identifying information is rarely totally absent in a museum, even if you may have to peer with difficulty in the dim light to read the tiny sign on the wall near the painting.

Users of information have to be careful about attribution whether the source is printed or digital. Don't neglect to name the author or other creator. Who is responsible for the intellectual content of the work. In the past, writers pondered details of quotation, paraphrase, footnote, parenthetical reference, and bibliography. Some of these concepts have faded, but it is still important to identify the source. Honesty demands that information not common knowledge or not original to you be credited to a source. Certainly if the item comes from a named individual, name him. You would certainly want someone using your creation to attribute it to you. Some writers want money, but all want recognition. Give it to them.

Recommended reading :

Lipson, Charles. *Doing Honest Work in College : How to Prepare Citations, Avoid Plagiarism, and Achieve Real Academic Success*. 2nd ed, University of Chicago Press, 2008, 258 p.

>>Holding information Stacks7F

Call No. PN:171:F56:L56:2008





2009年11月に私立大学図書館協会主催の海外研修参加の機会を頂き、約1週間、UBC図書館(バンクーバー)で、カナダの先進的な図書館の組織・サービスについて学んでまいりました。

UBCは、学生数約50,000人に上る西部カナダ最大の名門大学であり、国際的にも知名度が高く、約6,000人の留学生が学んでいます。

図書館は、中央図書館のほか、22の特色ある図書館があり、中でもアジア図書館は、日本語をはじめ、アジア各国語の書籍を55万冊所蔵し、カナダで一番の規模です。また、カナダ先住民の資料を収集しているFirst Nations House of Learningは、独自の分類法により資料を収集しています。全図書館の蔵書数は、560万冊、ebooks 34万点、e-journals 7.8万タイトル、databases 400種、その他多くの資料を所蔵しています。図書館職員は300人以上(内80人が専門職としてのライブラリアン)であり、年間270万冊が貸し出され、300万人が閲覧に訪れ、400万人がウェブサイト閲覧し、ページリクエストは3,000万ページにも上ります。

特色としては、カナダ初の180万冊収納可能な自動書庫ASRS(Automated Storage and Retrieval System)と、中央図書館の歴史的建築を残したまま学習支援機能を拡充させたIrving K. Barber Learning Centreがあげられます。1階は大小の教室が設置されており、2階に、ASRS、軽食を取れるカフェテリア:「ike's caf?」を併設しています。蔵書のほとんどは

ASRSで管理されているので従来の図書館のように書架に囲まれている閲覧席などは一部を除きほとんどありませんでした。3階にChapman Learning Commons (CLC)が設置されており、学生チューターが駐在し、レポートの書き方や、PCのソフトウェアの使い方などピア・サポートが行われています。従来型の図書館の機能は扉を介した静寂なスペース「Quiet and Silent Study」に残され、学生同士で議論する場(Open Study Spaces)や、問題や課題を解決する場(CLC)との住み分けが有効になされています。

英語を母国語としない学生のための英語学習ワークショップが、このセンターにおいて常時開催されていました。言葉を障壁とさせてはいけないという強い思い、地球市民をつくるのだという思いが、多民族・多文化国家であるカナダの図書館サービスにしっかり反映されていました。また、ライブラリアンの中でも学部と図書館、学生と図書館をつなげる役割を担っているリエゾンライブラリアンが、専門分野の講習会など利用教育を積極的に行っていました。また、デジタル化、地域との連携も図書館の最重要課題でした。

研修を通じて、今後、大学図書館がどのような方向に進むべきかを考えるよい機会になりました。本学図書館でも、できることから実現できるよう、学術情報の充実・サービスの向上を図りたいと思います。

電子ジャーナルを使いこなそう

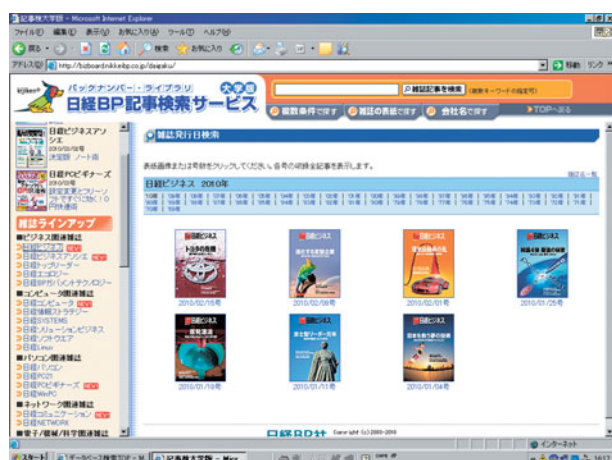
インターネットが普及する前は、図書館で扱う資料は、冊子体（紙）による図書・雑誌・新聞が主な情報媒体でした。現在は、雑誌やレファレンス資料などの電子化がかなり進み、電子ジャーナルや電子ブックが図書館資料としての存在感を増しています。

電子ジャーナルとは

従来、紙の媒体で刊行されていた雑誌を電子的な手段で提供するもの。特に学術雑誌を電子化し、コンピューターのディスプレイ上で見られるようにしたもののが広く一般的になりつつある。インターネットの発達により、多くの出版社がWeb上で電子ジャーナルを基本的に有料で提供している。紙媒体の雑誌と並行して出版されるものと、電子版のみのものがある。本学では、約24,000タイトルの電子ジャーナルが利用できる。

『日経ビジネス』（日経BP社発行）の 2010年2月15日号の例で見てみましょう。

「日経BP記事検索サービス」（日経BP社発行約40誌のバックナンバー記事を検索閲覧できるデータベース）のホームページから閲覧します。



<アクセス方法>

図書館ホームページを開く



[方法1] 雑誌記事検索⇒「雑誌記事を探す」のページ

[方法2] データベース・電子ジャーナル一覧



日経BP記事検索サービスを選ぶ⇒『日経ビジネス』

このように、読みたい号、記事を選ぶと
本文が誌面イメージで表示されます。



学内のPC*から図書館のホームページに入り、リンクをたどって、学術雑誌を探したり、画面から論文・記事を見たりすることができます。

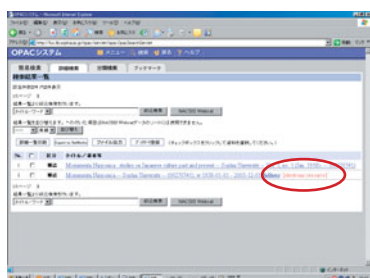
(*VPN接続により自宅等学外からのアクセスも可能です。VPN接続は総合メディアセンターでサポートしていますが、図書館のデータベース検索のページからリンクしています。)

どのような場面で電子ジャーナルを閲覧するのか、 ケース別にご紹介しましょう。

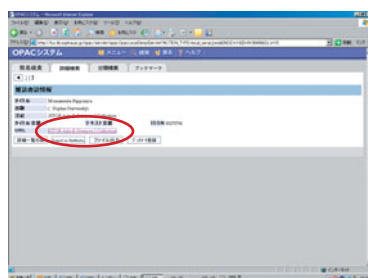
ケース① 読みたい雑誌、記事がはっきりしている場合

閲覧したい雑誌が決まっている、読みたい記事や論文の雑誌タイトル、巻号、年が分かっている時。

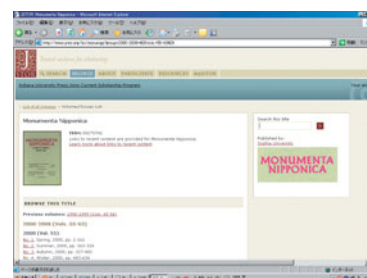
方法1 OPACで見たい雑誌を検索する



→ヒット結果に「**electronic resource**」とあるものは、電子ジャーナルが利用できる資料です。該当の資料をクリックします。



→URLをクリックします。



→見たい巻、号を選択し、閲覧します。

方法2 電子ジャーナルアクセスページから該当の雑誌を選ぶ



→タイトル、A to Z、→URLをクリックします。
分野別等からEJを探す。



→見たい巻、号を指定し、
閲覧します。

ケース② 分野やテーマから雑誌記事を探す場合

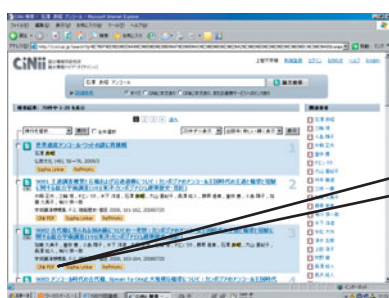
特定のテーマやトピックについて書かれた記事や論文を探したい時。
論文タイトル、著者などはわかるが、何の雑誌にいつ掲載されたものかを知りたい時。

方法 データベースを使って検索する

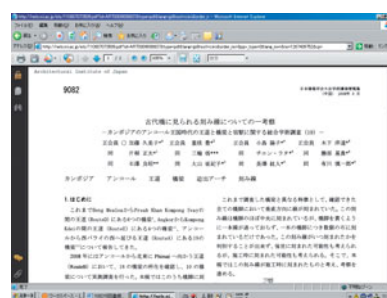
雑誌記事検索データベースを開き、検索画面にキーワードを入力すると関連文献が検索できます。
日本語雑誌では**CiNii**、洋雑誌では**EBSCOhost**などがあります。

データベースの検索結果画面から、その場で閲覧できるものや、**Sophia Linker** でリンクして手に入るものがあります。

[CiNiiを使って検索する例]



CiNii PDFをクリックすると
本文が見られます。



国民読書年です。新書から始めてみませんか？

皆さんは公共図書館や本屋さんで「新書」を手にとったことはありますか？

今、日本では「新書」ブームがまきおこっています。2003年に新潮新書の『バカの壁』の大ヒットで、新書ブームに火がつけました。最近2-3年で10シリーズ以上の「新書」が発行されています。

「新書」とは新刊本のことではありません。新書版という文庫本よりも少し大きいサイズのシリーズ本のことです。1938年岩波書店が当時のアメリカで人気だったペリカンブックスをモデルに「岩波新書」を創刊したのが新書の始まりです。

「新書」は、様々な分野の専門家によって書かれ、今の話題をテーマにした本が多いのが特徴です。専



門家がわかりやすい言葉で書いているので専門書を読む前の入門書として適していると思います。通学のお供に良い持ち歩きサイズでもあります。

上智大学図書館では地下1階中央に新書コーナーがあります。最近刊行が始まった新書(小学館101新書・角川SSC新書)など21シリーズの購入を開始しました。ちょっとした時間に図書館に足を運んで新書コーナーを歩き回ってみませんか？新書が新しいテーマとの出会いを見つけてくれるはずです。

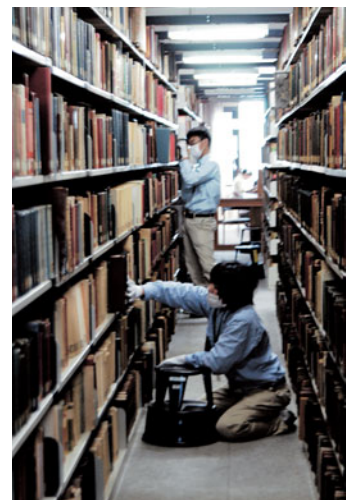
図書館で足立特別支援学校高等部 ビジネスコース1年生を実習生として受け入れ

実習担当：学術情報チーム 網田 珠江

図書館では2月22日(月)・24日(水)、3月1日(月)・3日(水)の4日間、校外実習生として足立特別支援学校高等部ビジネスコース1年生全16名を受け入れました。蔵書点検(バーコード読込)、シェルフリーディング(資料の配列整理)、書架調整などの作業をしてもらいましたが、みんな最後まで根気よく作業をしてくれました。実習終了後は「大変だったけど、とても楽しかったです」、「また、実習に来たいです」などの感想が多く寄せられました。

図書館では、年間を通じた実務実習(週1日)、2週間の現場実習なども行っており、今後もできる限り実習生に対応していきたいと考えています。

なお、同校は本学の教職課程の一環である介護等体験実習先であり、毎年本学学生(15~20名)がお世話になっています。



機関リポジトリとは？

機関リポジトリとは、大学とその構成員が創造した学術研究および教育の成果物を収集・蓄積・保存し、広く公開することを目的としたシステムです。

本年4月1日から上智大学学術情報リポジトリ(Sophia-R)を公開しています。現在は、大学発行の雑誌(紀要)を中心に本文の公開を行っていますが、今後は、博士論文や、各種の研究誌に掲載された論文なども搭載していく予定です。

<http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/> にアクセス！
(図書館のホームページからもアクセスできます)



上智大学図書館だより No.7

発行所 上智大学図書館
〒102-8554
東京都千代田区紀尾井町7-1
TEL: 03-3238-3510
FAX: 03-3238-3139
発行日 2010年4月1日
印刷 株式会社ユニット
TEL: 03-5649-0031